

## 第3回文化遺産学交流会

2009年11月19日(木)  
佐賀大学地域学歴史文化研究センター

2009年11月19日(金)、佐賀大学地域学歴史文化研究センターとの文化遺産学交流会を行なった。これまでの交流会では、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターにお越しいただいてきたが、今回は当センターが佐賀大学を訪問する形での開催となった。

2006年4月、佐賀大学地域学歴史文化研究センターは、「〈地域学〉の創出」を目標に、「文理融合型の研究センター」として設立された。センターは、考古学、国文・文献学、洋楽・思想史、地域史・史料学の4つの研究部門で構成され、研究推進と地域貢献活動を主な事業として活動している。

まず、副センター長の青木歳幸あおきとしゆき氏からご挨拶いただき、続いてセンター長の高崎洋三たかさきようぞう氏に地域学歴史文化研究センターの概要についてご説明いただいた。

つづいて、専任教員の伊藤昭弘いとうあきひろ氏よりセンター設立の経緯や具体的な研究活動についてのご紹介があった。伊藤氏には、展示会・講演会・シンポジウム・刊行物を中心に、世界遺産登録に向けた取り組みなどもお話いただいた。



高崎 洋三氏



伊藤 昭弘氏

一方、当センターからは、まずセンターP.D.の櫻木潤が、「関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターの活動」と題して、「文化遺産学の構築」「地域連携」というテーマで紹介した。

そして、センター特別任用研究員の内田吉哉からは、「特別プロジェクト「豊臣期大坂図屏風」の研究」と題して、センターがこれまで取り組んできた豊臣期大坂図屏風の調査・研究活動について報告した。そして、お互いのセンターの紹介の後、最後に質疑応答という形で意見交換を行なった。

また、交流会の後には、地域学歴史文化研究センターの活動拠点である「菊楠きくなんシュライバー館」（旧制佐賀高等学校の外国人宿舎を復元した建物）をご案内いただいた。



櫻木 潤 (P.D.)



内田 吉哉 (特別任用研究員)



意見交換の様子



伊藤氏による解説



菊楠シュライバー館